第49回EST創発セミナー

世界に誇れる 美しい 共生社会のまちづくり

令和6年11月29日

陸前高田市副市長　石渡　史浩

自己紹介

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City

●生年月日：昭和43年3月16日（56歳)

●出 身 地：青森県八戸市

●経　　歴：
・昭和61年4月　建設省東北地方建設局入省
（現国土交通省東北地方整備局）
・平成31年4月～令和　3年3月　道路局環境安全・防災課
・令和　3年4月～令和　5年3月　三陸国道事務所
・令和　6年4月～　陸前高田市副市長
※採用から令和3年3月まで、ほぼ道路関係部署に在籍

●趣　　味：体を動かすこと

陸前高田市と東日本大震災

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City

■ 人的被害

1,760 ／ 24,246

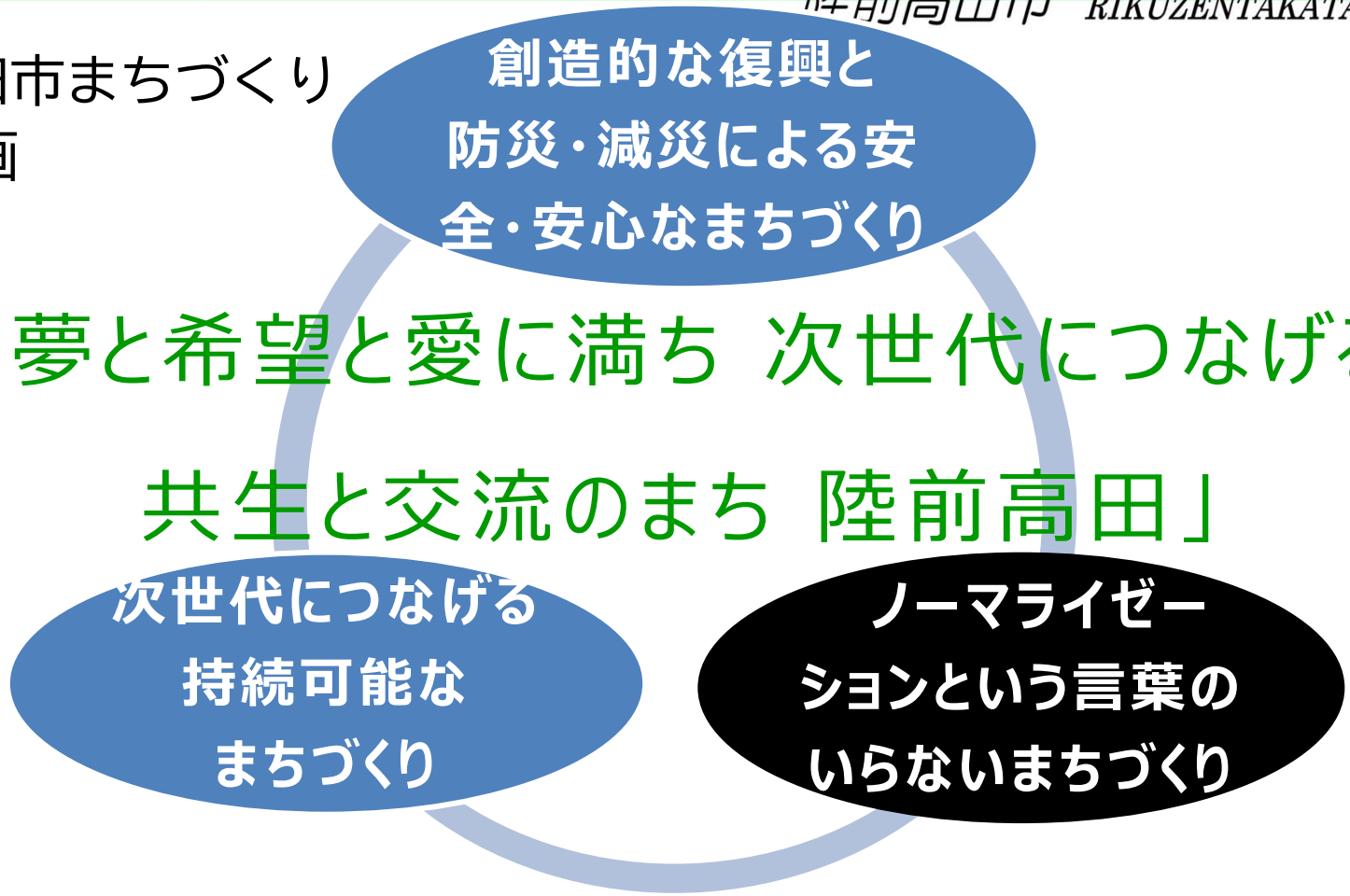
■ 家屋被害

4,047 ／ 8,069

復興に向けての想い

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City

■ 陸前高田市まちづくり総合計画



■ 私たちは、被災により“社会的弱者”となった。

■ あるいは、そう感じる立場に立った。

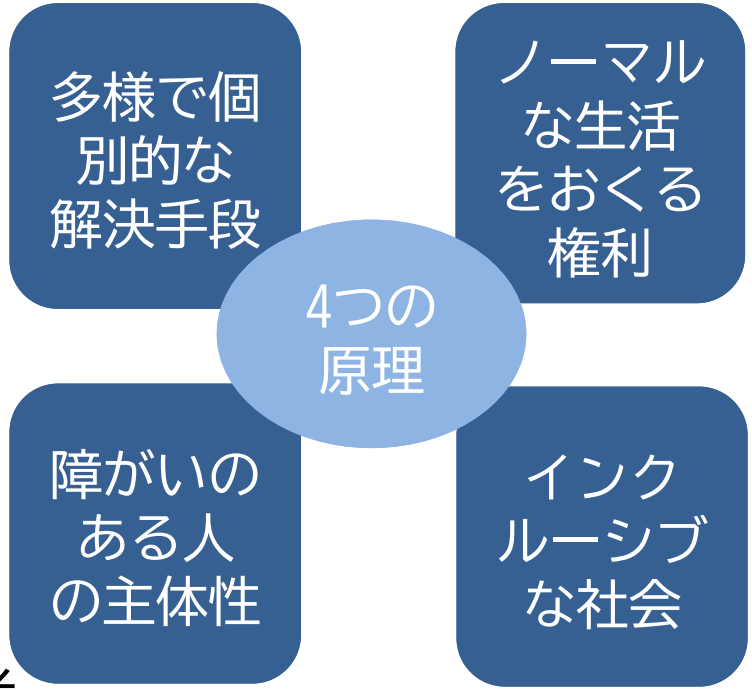
⇒復興するまちは、すべての人が住みやすく暮らしやすいまちに

ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City

ノーマライゼーション

（normalization：標準化・正常化、常態化）
「障がいのある人が障がいのない人と同等に生活し、ともに生き生きと活動できる社会を目指す」という理念　※厚生労働省より



■ 誰でもが暮らしやすいまちづくり
障がいのある人もない人も、子どもから高齢者まで、市民みんなが生き生きと笑顔で過ごせる誰もが住みやすく暮らしやすいまち　→「世界に誇れる美しいまち」

■ 人々のしあわせづくり
多様性を認め合い、個性を持つ一個人として尊重されるとともに、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保され、社会の一員となる

“ノーマライゼーション”からSDGsへ

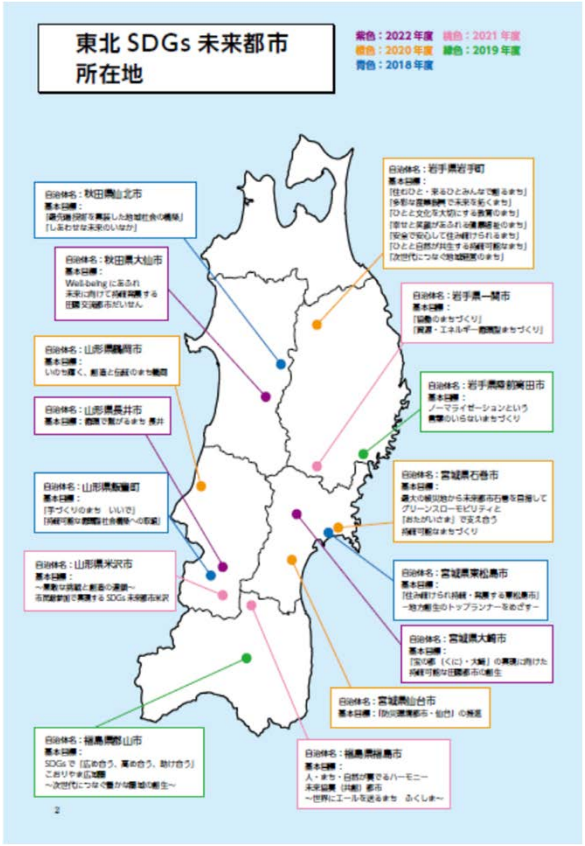
陸前高田市 RIKUZENTAKATA City

- 当市においては、2011年12月に近隣1市1町及び1団体の広域にて「環境未来都市」として選定済み

- 「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」が「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指すSDGsの理念に合致

- 内閣府からSDGsの達成に向けた取組を推進させる団体として、2019年7月1日に令和元年度「SDGs未来都市」に県内で初めて選定

2018年：29団体、2019年：31団体、2020年：33団体
2021年：31団体、2022年：30団体、2023年：28団体



グリーンスローモビリティの導入

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City

「モビタ」運行で広がる輪

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City

市民、来訪者の新しい足に

市営住宅今泉団地

中心市街地

市営住宅中田団地

農業テーマパーク
オーガニックランド

グリーンスローモビリティにて周遊

発酵の里CAMOCY

復興祈念公園
津波伝承館・道の駅

「モビタ」運行で広がる輪

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City

■市内公共交通の令和5年度利用実績

路線名	R5総利用者数（人）	R4総利用者数（人）	R5－R4（人）	増減割合
生出線	5,495	5,063	432	8.5%
長部今泉線	674	636	38	6.0%
たかたコミュニティバス東部線	1,535	1,298	237	18.3%
たかたコミュニティバス西部線	1,464	1,002	462	46.1%
広田線	4,578	4,425	153	3.6%
広田半島線	1,932	1,651	281	17.0%
デマンド交通	1,219	1,381	▲162	▲11.7%
小計	**16,897**	**15,456**	**1,441**	**9.3%**
グリーンスローモビリティ（モビタ）	4,146	4,156	▲10	▲0.2%
合計	**21,043**	**19,612**	**1,431**	**7.3%**

共生のまちづくりに向けて

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City

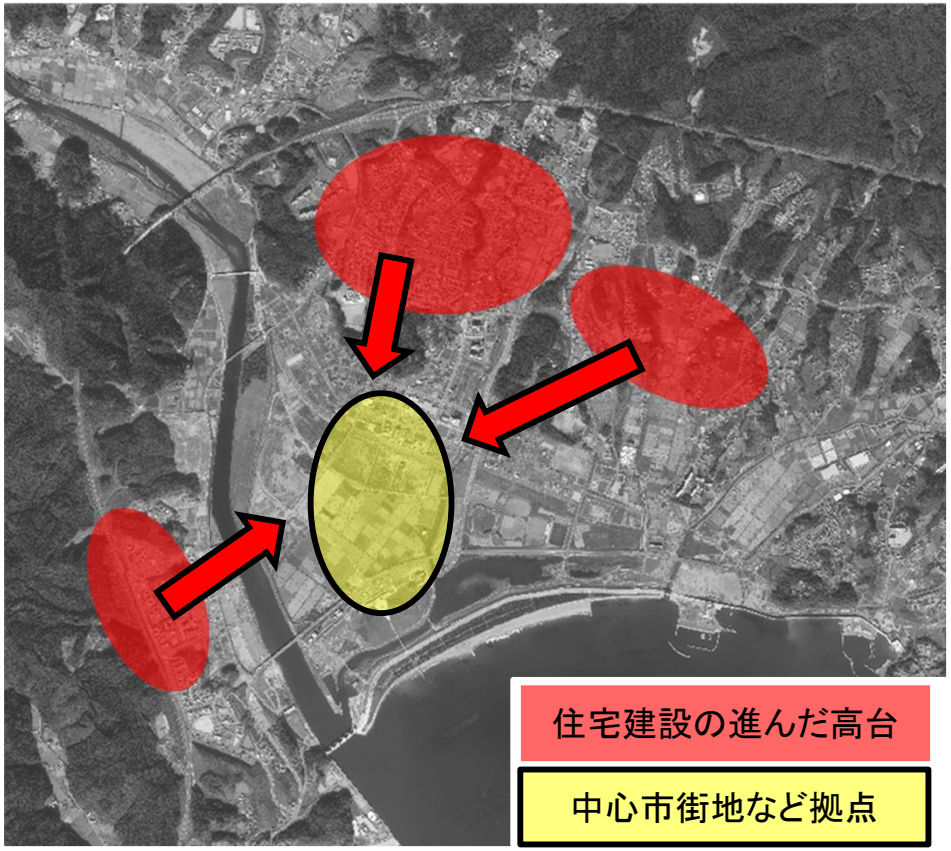
- 市民の「生活の足」の確保
- 観光客の回遊による「まちなかのにぎわい」の創出
- フレイル予防や買い物支援など「新たな可能性」の模索

創り出したいのは、
“移動自体を楽しむ空間”

すべての人にとって
暮らしやすい「共生の
まち」へ

共生のまちづくりに向けて

陸前高田市 RIKUZENTAKATA City



・アプリによる事前予約
・バーチャルとリアルの停留所を併用

・AIで最適の経路を選択
・ドアツードアに近い乗り降り

高台部の住宅から買い物・病院などの拠点まで、どのように「つなぐ」か？

モビタなど新モビリティへのAI技術導入

課題解決、脱炭素社会への一助に

ご清聴ありがとうございました